選考委員のコメント（長岡市立上組小学校）

○「どこからがオリジナル?・・・」という大変難しい問題に取組まれた。
子どもたちに「作者の気持ち」だけではなく、「経済的影響」についても考えさせることは大切であり、意義のある学習である。人格権と著作権の区別が言葉でではなく実践として理解させることにつながる。
さらに、「許諾を求める」ことの大切さをも含んだ学習となっている。
ただし、表や図が小さいので資料として添付されるとより充実した実践事例となったのではないか。

○２年間継続的に指導を進める中で，著作権に関する理解を深め、判断力を高めていこうとする教師の意欲がすばらしい。この通りの内容を他校で実践することは難しいと思うが，ダイナミックな体験活動を展開するなかで、著作権に関わる学習を位置づける授業デザインは参考になると思う。

○学校全体の取り組みとしての自校版教材の開発の意図は優れているが、今年度は、「今後の課題」で触れている「今後は子どもの実態に即し、二次利用や許諾を体験的に行い、・・・・実践を進めていきたい」内容を実践して欲しかった。今年度の内容は子どもの意識調査のみに集中し、構成も学術論文的な展開になっているし、その内容表現もデータも読み取りにくい。

○道徳教育と著作権教育を結びつけた典型的な展開例であり、新学習指導要領のもとで今後標準的なものとなる実践形態への示唆に富んだ報告である。
作品制作と著作権など、具体的な実習活動と道徳的価値やルールについての学習を結びつけた実践が詳しく報告されている。

○ルール･法律だからと決まり文句を言わず､児童の実態や体験に基づいて指導している。
自校で、情報教育に関するカリキュラムが策定されていてよい。
字数が多く、実践事例というより、報告書（レポート）のような気がしている。
ワークノートをどのように活用するかが書かれているとさらによい。

○幅広い活動を通して自然に著作権に関心をもたせ、著作者の心情にふれさせる素晴らしい実践である。

○作品を鑑賞する立場、作品の制作者の立場、作品を展示したり美術館を運営したりする立場などを体験学習して行く中で、「自他の作品を大切に扱う」ことを考えさせる授業は大変興味深い。さらに、道徳の時間ということもあり、「価値観や考え方」に展開させて

いく授業は大変意義がある。

〇著作権教育における小学校段階の重要性を認識し、体験をベースに著作権に対する感度（意識）の高い子どもを育成したいという考え方に共感する。

〇学校全体で情報モラルの計画がしっかりしており，なおかつ著作権についても高学年において適切に位置づけられているのがすばらしい。

著作権を全面に出さずに，その前に，自他の作品を大切にするという根本的なところに重点を置いて指導がなされているのがすばらしい。

実践後の子どもの変容について，具体的な記述，数値にしっかり示されているのがすばらしい。

情報教育主任の研修会での公開授業，協議会を行って，実践を広げ深めている点がすばらしい。

他の学校でこのまま取り組むことは難しい。